

令和7年度 学校経営の構想について

校訓 望みあり 力あり 光あり

学校教育目標



○自律「周りの力を上手に借りながら、自分で考え、判断、行動し、責任をとる」

○尊重「自分はもちろん周りの人を大切にし、対立は対話で解決する」

○創造「学びに夢中になり、既習事項を活用し、自ら学びを深める」

めざす学校像

すべての子どもが安心して自ら学び、チャレンジするウェルビーイングな学校

～ 失敗・トラブルは子どもたちの生きた学びへ ～

I 経営の重点方針について

(1) 生徒指導を学校経営の柱とする。

- すべての教育活動で、生徒指導の実践上の4つの視点（自己存在感の感受、共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を大切にする。

(2) 学校教育目標、めざす学校像の具現化を全職員でワクワクしながらめざす場を設定する。

- 新たな知の創造→「学びカフェ」×「ミニ学びカフェ」で生まれるワクワクする教育活動の実現、保護者、地域との連携
- 職員会議、育成部会、研修の充実

(3) 教職員の働き方改革を推進する。

- 働き方改革の目的 → 子どもたちの教育の充実
- 目的を失った活動、効率が悪い活動は年度途中でであっても見直す。
- 平日、休日に職員が自分の趣味に没頭する時間を作り出す。
- 教職員の命、健康を守る

Ⅱ 重点教育活動について

1 魅力ある学校づくりの推進

- (1) 子どもが安心して自らチャレンジできる環境づくり
- (2) 失敗、トラブルを学びに変える支援体制の構築
- (3) 異学年による協働的な学びの充実
- (4) 学校いじめ基本方針の共有・見直し
～ いじめの未然防止、早期発見、組織的対応を大切にして ～
- (5) 学校教育目標等を保護者、地域と共有し、共につくる学校教育の推進
- (6) 「子どもの声調査」生かした学校経営の展開

2 子どもの「いのち」を守る教育の推進

- (1) 居場所づくり、絆づくり、関係づくり
 - ・教育相談体制の構築
 - ・協働的な学びの充実
- (2) 目的が明確な教育活動
 - ・個に応じた運動能力の向上
 - ・安全教育の充実
- (3) 日々の生活を自分で調整できる力の育成
 - ・メディアコントロール
 - ・生活習慣の確立
 - ・望ましい食習慣

3 確かな学力の育成

- (1) 子どもも先生も「たのしい」授業づくり
 - ・学校研究とも連携し、自由な発想で研修を進める。
- (2) 多様な学び方の保障
 - ・ゲストティーチャーを活用した学びの場の設定
 - ・ＩＣＴ機器の効果的な活用。自分の特性に応じた学びの保障。
 - ・本が大好きで心豊かな子どもを育てる読書指導の充実。
- (3) 主体性を大切にした取り組み
 - ・安心してチャレンジできる環境を整える。
 - ・失敗を学びに変える。失敗をポジティブな経験に変えていく。
- (4) 互いの考えをきき合い、学び合う学習活動
 - ・異学年による協働的な学びの推進。子ども学びカフェの時間

4 誰一人として取り残さない共生社会の実現に向けた教育の推進

- (1) 教員の特別支援教育にかかる専門性の向上
- (2) 異学年を含む協働的な学びの充実
～ 交流及び共同学習の充実 ～
- (3) 多様な価値観に触れ、認める教育の充実